

EGRクリーナー

DPF・EGRなどの車両用排ガス処理装置のカーボン洗浄剤

EGRクリーナーは、EGRクーラー(一次・二次側)やEGRバルブの金属表面や、DPFマフラー内(多孔質セラミック内)に付着・閉塞した硬質カーボン除去用洗浄剤です。アルミニウム、鉄に対する腐食性はありませんので、これらの材質を含む部材に付着・閉塞したカーボン汚れを、母材を傷めずに洗浄・除去することができます。

特 性

- 強力な浸透力で硬質カーボンに速やかに浸透し、金属・セラミック・プラスチック面から剥離、除去します。
- アルミニウム、鉄に対する腐食性はありません。
- 刺激性・悪臭がなく、かつ低泡性ですから作業性が良好です。

使用 方法

① EGRクーラー・EGRバルブの洗浄

- ※EGRクリーナーは、原液のまま使用してください。水で希釈すると洗浄力が低下します。
- 適切な方法で、EGRクリーナーを加温して下さい(詳細な工程は別紙:EGR洗浄マニュアルを参照下さい)。
 - 硬質カーボン付着部分を、EGRクリーナーに(加熱)浸漬してください。
(加熱)洗浄時間は、先ず1~2時間を目安に行い、汚れがひどい場合は更に延長してください。
 - 洗浄後は、水で十分濯ぎ洗いをしてください。
 - 洗浄剤は反復使用ができますが、使用限度になると洗浄力が低下して液が黒くかつ増粘しますから、新しい液と取り替えてください。洗浄限度の目安は、洗浄回数が2回です。

② DPFマフラーの洗浄

- ※EGRクリーナーは、10倍程度に水(お湯)で希釈して下さい(湯温は60℃程度)。
- 洗浄容器に満たした希釈洗浄液中へ、汚損DPFマフラーを上下方向に浸漬してください。
 - より効果的な洗浄には、DPFマフラー底部からの空気バブリングや洗浄液の系統内の強制循環を推奨します。洗浄容器を加熱して洗浄液を対流させる洗浄も効果的です。
 - 空気バブリングの場合、30分程度洗浄後、DPFマフラーを上下反転させ、さらに30分程度洗浄します。
バブリングしない場合は、片面で1~2時間浸漬し、その途中で数回マフラーを上下動させて下さい。
(マフラー内のカーボン汚れがはがれ落ち、洗浄容器底部に沈降します)
 - 洗浄後、DPFマフラーを水洗します。カーボン等が洗浄されていれば出口の水の流れが整っています。
 - エアブロー・ジェットヒータによりDPFマフラーを乾燥させます。

③ その他のカーボン汚れパーツの洗浄

- 洗浄容器にEGRクリーナー(原液)とカーボンで汚れたパーツを入れて浸漬洗浄してください。
(パーツの耐熱温度以上に洗浄液を加温しないでください)
- 洗浄後は、水で十分濯ぎ洗いをしてください。

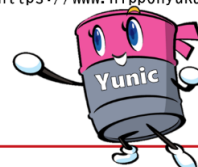
(裏面もお読みください。)

進取の気象をモットーに
 **日本油化工業株式会社**

横浜本社： TEL： 045(201)8867 / FAX： 045(201)8358
神戸営業所： TEL： 078(321)4105 / FAX： 078(321)4107



←お問合せはこちらまで。
(<https://www.nipponyuka.jp/>)



2023.08

使用上の注意

- グラファイトコーティング・塗料は剥がれる場合があります。
- 亜鉛は侵される場合があります。
- EGRクーラー洗浄時にて、長時間の加温により水分が多量に蒸発した場合、内容物が析出することがあります。その場合は、適宜蒸発し目減りした分の清水(水道水)を補給してください。
- 廃液は、産業廃棄物として処理して下さい。

取扱上の注意

- アルカリ性ですから、防護眼鏡・ゴム手袋等の保護具を着用してください。
 - 応急処置
 - ・ 眼に入った場合： 多量の清水で15分以上洗い流してください。
 - ・ 皮膚付着の場合： 水で洗い流してください。
- ※状況に応じ、医師の診察を受けてください。

保管上の注意

- 冷暗所に保管

荷 姿

	重量(kg)	寸法(WxDxH,cm)
● 18L バッグインボックス	20	28.5x28.5x28.5

関 連 法 規

- 該当なし

性 状

- | | | | |
|-----------|-----------------------------|-----------|-------|
| ● 外 観 : | 無色～微濁液体 | ● 引 火 点 : | なし |
| ● 密 度 : | 1.10g/cm ³ (15℃) | ● 反 応 : | アルカリ性 |
| ● 主 成 分 : | 無機アルカリ塩、キレート剤、界面活性剤 | | |